

新宿氷川神社本殿（新宿町一丁目）

本殿は覆屋内に収められた江戸彫を多用した小型の一間社流造で、屋根は軒唐破風を付けた板葺の瓦葺葺です。軒を支える組物は尾垂木付の二手先で詰組とし、花鳥を浮彫した板支輪を四周に回し、斗拱間に鶴やきじなどの丸彫彫刻を飾ります。妻飾は、二手先で大虹梁を持ち出し、その上に出組を組み二重虹梁を架け、中央に力士像を置き、化粧棟木を支えます。ひさしの架構・彫刻も手が込み、柱は地紋彫を施した角柱ですが、竜が巻きつききほとんど見えます。ひさしの側面の繫海老虹梁は、全体が竜の籠彫になっています。



新宿氷川神社本殿

身舎三面の壁には、密度が高く立体的に彫られた江戸彫彫刻があります。特に背面は壁面が広く、天岩戸開を題材とした神話の情景を生き生きと表現しています。左脇障子の背面に刻銘があり「大工棟梁 野本喜延 熊谷住彫工 小林正信」と記されています。野本喜延については不詳ですが、小林正信は、小林源八正信と名乗った幡羅郡玉井村（現在の熊谷市）出身の彫り物師で、寛政九年（一七九七）に箭弓稲荷神社本殿（東松山市）を手がけたことで知られています。川越を代表する、江戸彫を用いた本殿の一つに数えられます。

世界の国から、こんにちは！



スリランカ/レスター・デ・アルウィスさん

海がとてもきれいで、ビーチリゾートとして知られる、ネガンボの出身です。ネガンボは1年中 暖かい所ですが、日本のように蒸し暑くないので、快適に過ごせます。スリランカの中央部は山地で、紅茶の原産地として有名です。そこは寒く、出かけるときは、上着が必要になります。

日本には11年前に来て、現在は旅行関係の仕事をしています。川越に住んで5年になります。仕事で都内に行くと帰ってくると、住み慣れたまちなので、ほっとします。これからも川越に住み続けていきたいと思っています。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは11ページ・15ページ、相談は23ページをご覧ください。

国際交流課・TEL224-5506

どんぐり

編集後記

ことしの桜は、3月下旬に咲き始め、4月の1週目まで楽しめました。そのおかげで、3月30日は満開間近の桜の下を、4月5日・6日は桜の花びらが舞う中行われた、新河岸川観光舟運。乗り場は常に行列ができて、3日間で約2,500人の皆さんが、舟から見る桜を楽しみました。昨年12月10日発行の広報川越で紹介した、船頭ボランティアの皆さんも、巧みなさおさばきを見せていました

▶桜の開花中、広報担当は、市内各地の桜の写真を撮影。私も、芳野・古谷・南古谷地区を中心に回りました。定番の伊佐沼をはじめ、川越運動公園・芳野台野球場・菅間緑地・古谷神社・並木氷川神社・泉町公園など、多くの桜風景を収めることができました。来年桜が開花する前に、市内の桜を紹介できればいいと思っています。(TO)